

米久が2月期業績予想を修正、連結は上方修正も個別は下方修正

米久は21年度業績予想の修正を発表した。予想数値の修正は次のとおり。

連結通期Ⅱ売上高1687億1700万円（修正前1685億円）、営業利益43億8700万円（同42億4千万円）、経常利益45億3900万円（42億2千万円）、当期純利益28億6300万円（同27億6千万円）とした。子会社のチムニー（株）が第4四半期に同社予想を上回る利益を計上し、個別業の修正影響をカバーしたことから、当初の連結業績見通しを上回るものとした。個別通期Ⅱ売上高1311億8600万円（修正前1320億円）、営業利益3億7300万円（同5億6千万円）、経常利益7億900万円（同9億5千万円）、当期純利益46億6200万円（同5億800万円）。消費者の節約志向に起因した低価格品へのシフトが続いていることに加えて、昨年後半から徐々に回復すると予想していた食肉の国内相場低迷が長期化したこと

が、業績予想数値を下回る見込みとなつた。

公立小職業ガイド本にTOKYOXの生産～カット流通まで紹介

TOKYOX—Associationによると、公立小学校図書館の就職ガイドブックとして常備されている、「食肉にかかる仕事」（畜産従事者、食肉センター、ハム・ソーセージ加工スタッフ）が初めて刊行された。発行は株式会社出版で、協力は中央畜産会やTOKYOX生産組合、世田谷農業者経営クラブ、TOKYOX—Association、（株）ミートコンパニオングループ、（株）アグリス・ワン、和光ミートセンター、（株）日本カイハツミートなどです。ヴィットインターナショナル企画室が編集している。同シリーズはA5判モノクロで、現在パート1から11まで既刊されて全国の小学校図書館に収蔵・展示されている。

「食肉にかかる仕事」は140ページのハードカバー本で、小学生向けの食肉に関する職業ガイドブックであり、導入部は「おいしくて安全な豚肉をささえて」と題したイントロコニックとなつており、マンガにより豚肉の生産からと畜・解体、卸売市場から小売・量販まで流通ルートに流れるシステムや市場外流通で加工業者を通じてハム・ソーセージが作られ販売されるまでをわかりやすく紹介している。さらに畜産従事者として家畜の豚を専用の豚舎で生産・肥育して出荷する養豚業に従事するTOKYOXの生産者代表の中村組合長や世田谷クラブの吉岡栄会長が登場している。あわせて畜産従事者になるための進路として農業系の高校や畜産系大学なども紹介されている。豚肉のと畜解体・カット処理工程では食肉センターのスタッフによる脱骨・整形やTOKYOX—Associationの銘柄化や付加価値化が掲載されている。ハム・ソーセージの話は、ハンス・ホールベックの小島豊さんを通じて、加工生産流通についても紹介している。小売価格は税別で2200円。